

令和7年度 慶進中学校・高等学校 学校評価書

1 学校教育目標	
教育理念 (スクールミッション)	建学の精神「至誠」のもと、「独立自尊」「至誠一貫」「敬愛感謝」の校訓を具現化した教育の実践、多様な価値観に触れる教育活動の実践により、生徒一人ひとりが自らがかけがえのない大切な存在であることを自覚し、「強い志」「高い学力」「高い人間力」を身につけ、社会に貢献する人材を育成する。
ビジョン 2030	教育理念の確実な実現に向けて、Society5.0の時代に求められる新たな資質、能力を兼ね備えた人材を育成する、地域に不可欠な全国有数の進学校をめざす。

2 本年度重点を置いて取り組む事項
1 生徒のことを第一義 2 生徒募集活動の強化 3 組織的で信頼される学校運営

3 自己評価					4 学校評価総括及び学校評価委員会	
領域	目標	具体的方策 (教育活動)	評価基準	達成度	取組と課題及び学校関係者の意見・要望	評価
学習指導	基礎学力の定着	学力の定着状況を適切に把握し、数値目標を意識した教育活動を展開する。Monoxer及びMEXCBT等の学習アプリや学習システムを効果的に活用する。 中期計画番号：3-1-1	各コース最後の記述模試における国語・数学・英語における「知識・技能」部分の総平均得点率 【アドバンス】 【グローバル】 4：45%以上 4：25%以上 3：35%以上 3：15%以上 2：25%以上 2：5%以上 1：25%未満 1：5%未満 【中高一貫】 4：60%以上 2：40%以上 3：50%以上 1：40%未満	3	○進研模試を活用した基礎学力「知識・技能」の得点率は全てのコースで前年度を上回り、概ね目標を達成している。中学校および高校1・2学年次に正しい家庭学習習慣を確立して2時間以上、さらに3学年次には学校推薦型選抜や総合型選抜の対策のみに頼らず、一般選抜・共通テストも視野に入れた3時間以上の学習を継続できれば、進学実績のさらなる伸長を図ることができると考えられる。Monoxerを活用した指導については、教科との相性により活用できる教科が限定された。 ○生徒アンケートの「参加したことがある」という回答は、学校全体としては33%であった。グローバルコースでは、探究活動の取組が大きく進んでおり、アドバンスコース、中高一貫コースにおいてもコース目標を踏まえて、現在の探究活動の取組を見直し、シラバスの的確な運用を図る必要がある。 ○山口県留学支援事業(オーストラリア)に1名、宇部市ニューカッスル姉妹都市交流に中学1名、高校2名(計3名)の生徒が派遣された。また、長期休業中に民間団体主催の留学事業に4名の生徒が参加した。更に、中高一貫コースではオーストラリアでの海外語学研修、台湾への修学旅行を実施するなど、国際理解を深める取組を進めた。	B
	生徒の自主的な探究活動の深化	コース・教科・行事・特別活動等において、表現の場(プレゼンテーション)を設定する。 中期計画番号：3-2-2	生徒アンケートで、「活動の表現の場(プレゼンテーション等)」に参加した生徒の割合 4：100% 3：80%以上 2：60%以上 1：60%未満	1		
	国際理解教育の推進	国及び各自治体、団体が主催する留学プログラムや短期研修、交流会(含、オンライン)に積極的に参加させる。 中期計画番号：3-4-1	国及び各自治体、団体が主催する留学プログラムや短期研修、交流会(含、オンライン)の参加者数 4：10人以上 3：5人以上 2：3人以上 1：3人未満	3		
生徒指導	学校行事の充実及び自主性・自律性の育成	慶進祭、スポーツフェスティバル(中)、体育祭(高)、クラスマッチ(中、高)等の学校行事・生徒会行事を充実させる。 中期計画番号：3-5-2	生徒アンケートで、「学校行事・生徒会行事」に関する肯定的評価の割合 【高】 【中】 4：90%以上 4：98%以上 3：80%以上 3：88%以上 2：70%以上 2：78%以上 1：70%未満 1：78%未満	(高) 4 (中) 4	○生徒アンケートでは中学校、高校とも99%の高い満足度を示している。中学校では、協力すること、全力で取り組むこと、達成感を味わうこと、他者とのつながりを深めることが、生徒の満足度を高めている。高校は、団結力の向上や人間関係の深化といった教育的効果も大きく、年間行事の中核をなす取り組みとして十分な成果を挙げた。 ○中学校においては加入率90%と非常に高く、部活動等が生徒の学校生活に重要な役割を果たしている。一方、高校の加入率は62%にとどまっている。これは、生徒会活動や外部団体への参加など選択肢の多様化や、進路に対する意識の高まりなどによるものと考えられる。	A
	スポーツ・文化芸術活動への主体的取組	部活動及びスポーツや文化芸術活動に取り組む生徒を増やす。 中期計画番号：3-5-3	部活動及びスポーツ・文化活動(校内外)に加入している生徒の割合 4：75%以上 3：65%以上 2：55%以上 1：55%未満	4		
キャリア教育	生徒の進路選択における主体性の育成	先輩の体験談、社会人講話等を効果的に設定し実施する。 中期計画番号：4-1-1	体験談、社会人講話等の開催回数(各コース計) 4：6回以上 3：5回 2：4回 1：3回以下	4	○先輩の体験談及び社会人講話を各コース合わせて11回実施した。設定した計画以上の成果を挙げており、大学生・社会人としての将来の自分の姿を考えるなど、生徒の進路選択における主体性の育成に大いに役立っている。 ○今年度から進路部が主導し、1学期・2学期に学校全体の行事として「進路相談週間(高校)」、「教育相談週間(中学校)」を設定し実施した。生徒の主体的な進路選択に向けた支援として効果を挙げている。	A
		各コースと連携し適切な時期に効果的な進路相談を実施する。 中期計画番号：4-1-2	進路相談実施回数 4：3回以上 3：2回 2：1回 1：0回	4		
人権教育	人権尊重の意識の高揚と生徒一人ひとりを大切にする教育の組織的・計画的な推進	人権教育関連行事及び生徒の人権学習関連行事を計画的・効果的に実施する。 中期計画番号：3-5-1	生徒アンケートで、人権学習関連行事に関する肯定的評価の割合 4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満	4	○人権をテーマとした講演会を2回、LHRを1回実施した。生徒の肯定的評価は高校95.0%、中学校88.9%と高い数値を示している。次年度も継続して取組を進めていきたい。生徒はもちろんであるが、教職員自身の意識についても、常に向上を図る必要がある。併せて、情報モラルやSNSの利用方法、マナーについての教育もさらに進めていく必要がある。	A

地域連携活動	地域との連携・協働による地域社会への貢献とおとした学びの推進	地域連携活動での学びを総合的な学習・探究の時間につなげ、自己の将来と社会を結びつけていく活動を推進する。 中期計画番号：6-1-1	地域連携教育活動に参加した生徒の割合(延べ数及び実数) 【延べ数】 4：55% 以上 3：45% 以上 2：35% 以上 1：35% 未満 【実数】 4：35% 以上 3：25% 以上 2：15% 以上 1：15% 未満	(延べ) 2 (実数) 3	○地域連携教育委員会において生徒の活動を推進した。生徒の活動の機会も増え、実社会での経験から高い人間力の育成ができた。 今年度は本館に探究ルームを整備し、地域連携活動や探究活動に取り組む生徒の主体的な学びを支援する環境を整えることができた。	B
安全教育	保健室・相談室の利用、カウンセラーのコンサルテーションの充実	保健室利用満足度を維持し、SC によるカウンセリング満足度を向上させる。 中期計画番号：5-2-1	生徒アンケートで、「保健室利用」満足度の肯定的評価の割合 4：90% 以上 3：80% 以上 2：70% 以上 1：70% 未満	4	○生徒アンケートによる肯定的評価は95.0%で、昨年度より6ポイントと大きく上昇した。カウンセリングについても年間計画どおり進行し、生徒の肯定的評価も高い。保護者対象のカウンセリングへの対応も、適直行っている。今後も、計画的に取組を進めていく。 ○安全教育に関する講話・訓練を今年度は6回実施した。生徒アンケートによる肯定的評価は98%と高い満足度を示した。今年度は、高知県黒潮町の町長から南海トラフ地震の被害が最も大きいといわれる町の取組や現状を聞いた。また、日本災害情報学会会長の片田敏孝氏を講師に、教職員研修を行った。当事者の生の声による説得力や被害ゼロを目指す姿勢など、深い感動を覚えたという意見が多く聞かれ有意義な研修となった。	A
	危機管理に対する安全教育・訓練の実施	安全教育に関する講話・訓練を年6回実施するとともに、教職員の危機管理研修を行う。 中期計画番号：11-2-1	生徒アンケートで、「今回の講話・訓練は役に立ったと思いますか」の肯定的評価の割合 4：95% 以上 3：85% 以上 2：75% 以上 1：75% 未満	4		
ICT教育	本校における教育DXの5年間の方向性を示した「Road to 2025」の実践	「ICT教育環境の整備と活用による効果的な教育活動の推進」と「生徒及び教職員のICTスキル向上」の実践を図る。 中期計画番号：3-3-1	教員アンケートで、「Road to 2025」の各項目におけるICTスキルに関する「できる」「だいたいできる」の割合 4：90% 以上 3：60% 以上 2：30% 以上 1：30% 未満	3	○アンケートにおける各項目の「できる」「だいたいできる」の割合は78.5%と、昨年度より46ポイント上昇した。今年度は、全教員が業務にICTを十分に活用できるようにスキルのマニュアル・動画を作成しスキルアップを図り、ICTを活用することが日常的になったことが大きな要因といえる。今後もICTスキルの向上に努めていく。	B